

西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議報告書【概要版】

1 地域医療の概況

将来推計人口

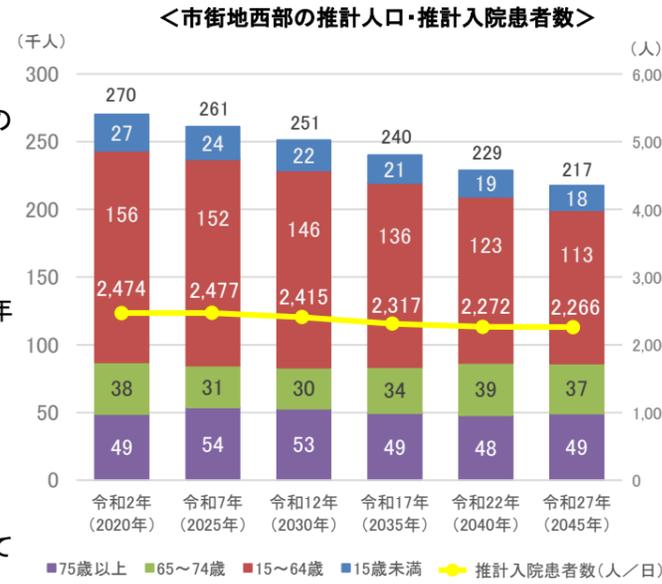
- 市街地西部（兵庫区・長田区・須磨区本区）の65歳以上の高齢者人口はほぼ横ばいで推移
- 令和27年の高齢化率は39.7%となる見込み

受療動向

- 市街地西部の1日あたりの推計病院入院患者数は令和7年に2,477人となりピークを迎える見込み
- 人口減少に対して医療需要の減少は緩やか

医療提供体制

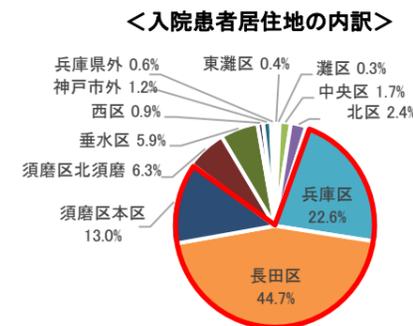
- 西市民病院は市街地西部における救急の約3割を受入れ
- 市街地西部の急性期医療は、西市民病院が中核病院として専門病院を含む周辺の医療機関と連携し対応



2 西市民病院の現状と課題

診療実績

- 西市民病院の入院・外来患者の約80%が市街地西部に在住
- 区別では長田区が約45%と最も高い



<西市民病院の外観>

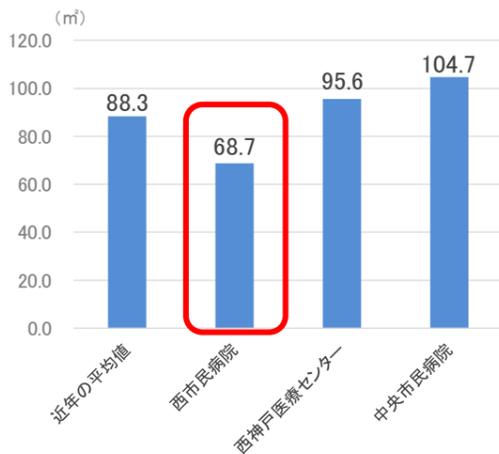


施設の状況

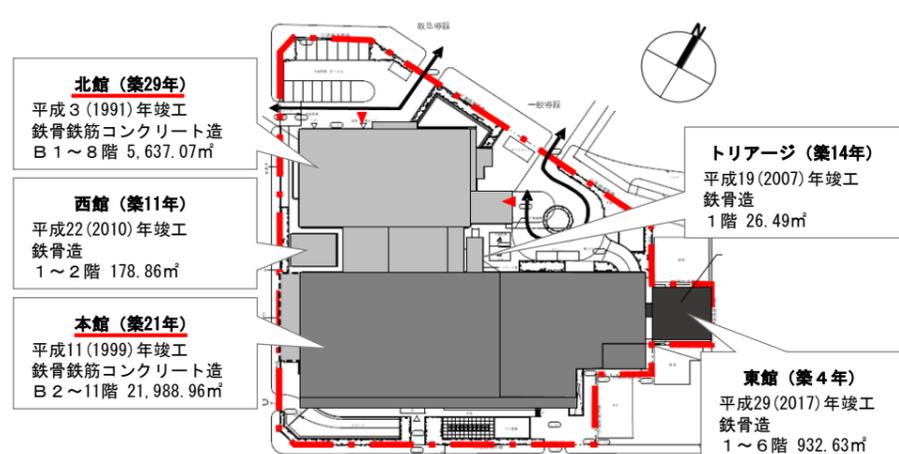
- 震災後に職員の増員や増改築を行うなど、地域の医療需要を踏まえた対応をしてきたが、老朽化と狭隘化の課題がある

項目	課題
老朽化	<ul style="list-style-type: none"> 築29年が経過している北館の配管設備等の老朽化が著しい 今後も安定して医療を提供するためには、建物及び各種設備の大規模改修が必要な状況
狭隘化	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内に空地がなく容積率もほぼ上限に達している 高度医療機器を導入するスペースがなく、政策的医療を含めた医療ニーズへの対応が困難 災害時や感染症対応時などの機能確保にも課題

<1床あたりの面積比較>



<敷地・建物の現状>



※ 近年の平均値は、平成22~30年に竣工した病院で専ら急性期医療を行う病床数300~400床の16件の平均値

3 市街地西部の中核病院が担うべき役割・機能

総論

- 市街地西部の中核病院として政策的医療をはじめとする必要な機能を強化し、地域医療機関との連携・役割分担により総合的な診療機能を向上させ、市街地西部内での受療の完結率を高める。
- 神戸市全体の3次救急を含む高度急性期医療や新興感染症・災害対応の機能を補完する。

政策的医療への対応

項目	担うべき役割・機能 (抜粋)
① 救急医療	<ul style="list-style-type: none"> 神戸市全体の3次救急を補完するため、民間病院では対応が難しい2次救急の中でより高度な診療機能を担う 重症化の恐れがある心血管疾患、脳血管疾患への対応強化により標準的な診療体制を構築し、地域医療機関との連携のもと、中等症救急搬送を市街地西部内で完結させる
② 小児医療	<ul style="list-style-type: none"> 市街地西部内で小児医療に総合的に対応可能な病院として、小児救急を含む小児医療への対応を堅持・強化 高次の小児医療を担う医療機関との連携を強化
③ 周産期医療	<ul style="list-style-type: none"> 小児医療体制とあわせて地域で安心して出産ができる周産期医療体制を構築し、地域の活性化に寄与 総合的な診療機能を持つ分娩取扱医療機関として、ハイリスク分娩への対応や小児科と連携した新生児への対応を継続
④ 災害医療	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時にも診療機能を継続するため、医療スタッフやインフラ、トリアージ等のスペースを確保 市街地西部の公立病院として、傷病者等の受入れ及び治療、救護所等に対する医療活動において中心的役割を果たす
⑤ 感染症医療	<ul style="list-style-type: none"> 新興感染症への対応のため、第二種感染症指定医療機関と同程度の機能・体制を確保 感染症発生時にフレキシブルに対応できる建物や、感染症病棟として切り替えて稼働できる運営体制を確保

がん・脳卒中・心血管疾患・糖尿病・認知症への対応

項目	担うべき役割・機能 (抜粋)
① がん	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民のがん通院治療の負担軽減及び就労者のがん治療支援を目的として、需給状況及び採算性を踏まえ、放射線治療機能の導入を検討 院内のがん診療機能を集約化し、集学的治療を提供
② 脳卒中を含む脳血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関との連携のもと、複数疾患を持つ高齢者の増加に対応し総合的な診療機能を向上 高度急性期治療や回復期リハビリテーションについては、専門医療機関との役割分担により対応 後方連携を担う地域の介護や福祉施設との連携を強化
③ 心血管疾患	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療機関との連携のもと、複数疾患を持つ高齢者の増加に対応し総合的な診療機能を向上 心臓リハビリテーションや慢性心不全の医学的管理など、市街地西部内での継続的な心血管疾患治療に対応可能な機能を確保 心臓血管外科領域は、専門医療機関との役割分担により対応
④ 糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防、早期治療、合併症治療などを促進するための機能を確保 市街地西部内の生活習慣病対策の拠点として、糖尿病の早期治療及び管理のための教育入院や糖尿病教室を行うとともに、地域医療機関との連携を推進
⑤ 認知症	<ul style="list-style-type: none"> 認知症疾患医療センターとして、進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供

4 市街地西部の中核病院としての地域連携のあり方

地域医療機関との連携

- 地域包括ケアシステムにおける急性期中核を担う地域医療支援病院として、引き続き病診・病病連携、医療・介護福祉連携、医科・歯科連携、薬業連携を総合的に促進する。
- 医療、介護、福祉関連施設からの救急対応や専門的な検査・治療の要請について、周辺の民間病院と連携し、市街地西部内での受療の完結率を高める。

必要な取り組み

- 患者支援センター等の相談窓口機能を整備し、かかりつけ医等と連携した入退院を支援
- 患者の病態などを地域の医療従事者と情報共有できるような仕組みづくりや勉強会を実施
- 地域の関連施設や地域住民向けの情報を発信

<地域連携のつどい(令和2年度)>



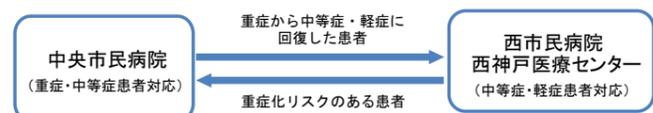
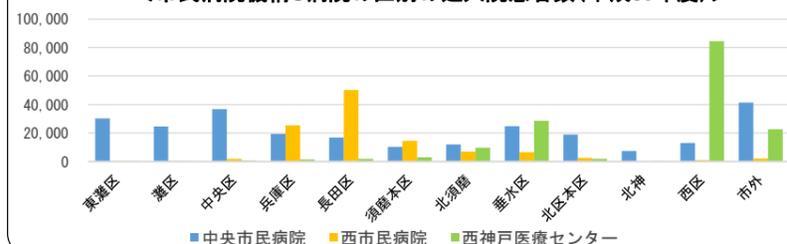
市民病院機構内の連携

- 市民病院機構 4 病院間での医療職の応援体制を強化するとともに、人事交流の取り組みを推進
- 4 病院間での医療情報システムの最適化やデジタル化に取り組む

病院	連携内容
中央市民病院	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対応等の経験を踏まえ、中央市民病院の担う3次救急や高度急性期医療を補完できるような機能を西市民病院で担う 高次の小児・周産期医療、高度専門医療については中央市民病院が担い、西市民病院との診療連携をさらに促進
西神戸医療センター	<ul style="list-style-type: none"> 教育・研修や災害時の応援・バックアップ等を中心に連携
神戸アイセンター病院	<ul style="list-style-type: none"> 西市民病院は糖尿病患者への対応強化として標準的な眼科機能を持ち、高度・専門領域は神戸アイセンター病院と連携

<市民病院機構3病院の区別の延入院患者数(平成30年度)>

<新型コロナウイルス感染症への患者対応の連携>



5 市街地西部の中核病院に必要な規模

- 神戸市全体の3次救急を補完し、新興感染症への対応等を強化する必要があるため、現在と同程度の病床数を確保する。
- 近年建設された急性期病院の傾向を考慮するとともに、神戸市全体の3次救急を含む高度急性期医療を補完する機能を持つべきであることから、1床あたり約100㎡の面積を確保する。

必要な病床数	現在(358床)と同程度
必要な建物規模	約100㎡/床

6 再整備の方向性

再整備手法

- 整備期間中も含め市民に対して必要な医療を提供するためには、整備期間中の診療機能の低下を最小限に抑え、必要な病院規模を確保できる「移転新築」が望ましい。

項目	大規模改修	現地建替え	移転新築
主な診療制限	<ul style="list-style-type: none"> 救急・手術の休止(約15か月) 100床以上の病床休止(約31か月) 	<ul style="list-style-type: none"> 救急・手術の制限(約7年間) 100床以上の病床休止(約48か月) 	<ul style="list-style-type: none"> 移転に伴う機能制限(約2か月)
建物規模	69㎡/床	76.5㎡/床	100㎡/床
工事期間	約6年間	約12年間	約4年間
概算事業費	170~190億円	210~240億円	230~260億円

※ 現地建替えの概算事業費は、100㎡/床の規模で整備する場合250~290億円
 ※ 近年の医療施設整備においては様々な発注方式があり、今後検討が必要

市街地西部の中核病院に求められる立地や環境・機能

- 今後、移転候補地の検討を行う際は、以下の項目を総合的に評価する必要がある。

項目	内容
来院者の利便性	<ul style="list-style-type: none"> 駅やバス停などの公共交通機関に近く、移動が困難な高齢者や働きながら通院する患者をはじめ、全ての利用者のための利便性を確保
医療機能の提供	<ul style="list-style-type: none"> 市街地西部の中核病院として必要な医療を提供し、総合的な診療機能を向上させるための建物規模を確保
感染症・災害対応	<ul style="list-style-type: none"> 新興感染症等に対応可能な病床や、災害時に対応可能な余地を確保 災害時においても医療機能を維持するため、災害リスクを回避
地域医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の医療機関との連携・役割分担等を考慮した位置関係
その他	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要なサービスをワンストップで提供できるような環境 再整備によるまちづくりと地域活性化への寄与 優秀な職員を集めるため、魅力があり働きやすい環境

7 今後検討が必要な事項

- 今後、再整備の検討を進めるにあたっては、市民の意見を踏まえるとともに、以下の点について速やかに検討・調査を進める必要がある。

- 移転新築における適切な用地の検討
- 診療機能の強化に必要な医療者の確保
- 財務シミュレーションや高度医療機器導入の際の採算性の検証
- 近年の傾向を踏まえた設計・工事等の発注方式等の検討
- 現病院跡地の利活用方法の検討